

旅の愉しみー駅弁掛け紙

かつて鉄道旅の楽しみの一つに、駅弁がありました。各駅で駅弁が売られ、列車がホームに着くと弁当を売る声が響き渡りました。その弁当には「掛け紙」が掛けられ、「包み紙」・「包装紙」などの折箱をすっぽり包む形態のものと、蓋や包みの上に貼り付ける「ラベル」・「レッテル」形式のものがあり、それぞれに駅弁の名称や、旅情をかきたてる素朴な絵柄が描かれています。

草津宿街道交流館には、鉄道切符をはじめ多くの鉄道関係の山口コレクションが入っていますが、そのうち弁当掛け紙が約 1,400 点含まれています。多くは 1970~80 年代のもので、1 世紀をまたぐ鉄道の歴史とほぼ歩みを同じくする駅弁の歴史においては比較的新しい時代のものですが、この時代は高度経済成長や核家族化が進み、多くの人々が旅に出かけた時期でもあります。特に、戦後の日本社会の急激な変化を受けて「家族旅行」や「ひとり旅」が脚光を浴びはじめた「旅」の画期にあたっており、掛け紙に書かれた「DISCOVER JAPAN」や「いい日旅立ち」など、かつて一世を風靡した国鉄キャンペーンのロゴとともになつかしの昭和の世相を読み取ることができます。

近年は、鉄道のスピード化によって乗車時間が短くなり、車内での食事時間が必要なくなったり、停車時間の短縮や窓が開かないことでホームの駅弁が買いにくくなったことなどから、駅弁販売の需要は百貨店などの駅弁大会に移っています。かつてののどかな鉄道に乗って、駅弁とともに旅の風情を味わってみたいものです。

